

課

日誌用

日誌用

至急電報

次長宛

五航軍漢參電第二三八四號(電註一部翻譯不能)

為遲延ス

昭和一九三〇

九二九、一六二、發九二九、一九三、
二九三、提出

第五航空軍參謀長

航空軍戰鬥要報(九月二十八日)

軍八南集團戰場來襲敵機ヲ邀撃スルト共ニ二十八日
夜引續キ柳州ヲ攻撃セリ

一飛行第八十五戰隊二戰十九機ヲ以テ爆撃ニ當リ

丹竹進出掩護ノ歸途十八時四十分封川上空ニ於テ

B-1、B-2、四機、P-1、五機、二十數機ト熾烈ナ戰鬥ヲ交ヘ

左ノ戰果ヲ收ム

(裏へ)

撃墜「P」五「L」五「B」二四「一」(不確實)

撃破「P」五「L」三「B」二四「一」

計撃墜破一〇機

我方自爆一機

二飛行第九十戦隊ハ双軽九機ヲ以テ柳州ニ進攻二十時

六分一二十一時四十分ノ間主ドシテ在地敵機ヲ捕捉爆

撃全機無事歸還セリ

戦果炎上大型二小型三

撃破小型一

計炎上撃破六機

(終)

第二〇

軍事機密

日誌用

電報

昭和一九三〇

九二九一五六〇發九三〇一九三〇提出

第五飛行師團長

通電先 總長 威司 草 第四飛行團

森 昆

五飛師參情電第三二六三號

五飛師參情電第三二五四號(電註當方未著)及

第三二五四號(電註發電番號重複セルモ作業ニ誤リナシ)

偵察要報其後寫真精讀結果左ノ如ク訂正ス

「フーコン」地區「外ホンガ」附近ノ新飛行場ト報

告セルハ二五萬分ノ一圖「カマイン」北方約二五料「

ニリン」(HINGRING)對岸ニ在リ

(裏へ)

630

1231

(1) 一五〇〇×四五米 鋪裝路一本南北方向

(2) 繫留地區七〇%完成

(3) 收容力各機種三〇機トス

(4) 多量ノ集積資材アリ

ニ「レド」ハム路ハ「フ」コン「レ」地區ヲ南下前項飛行場

迄完成シアリ 飛行場周邊ニ約四〇輛ノ大型自

動貨車(空輸ハ不能ナラン)ヲ認ム

(1) 路幅一五米 鋪裝面一〇米

(2) 南方ニ銳意延伸工事中ノ如シ

雲南驛南飛行場(二十四日十四時四十五分)「B」三

型「B」三「B」四「L」型「B」五「L」型「P」三「L」型八

小型二一 計五四

(終)



読用

電報

六三〇三〇三發
一〇一〇〇四五著
一〇一〇二六揚出

昭和一九、二〇、二、

通信先 次長、航本、
第五航空隊 參謀長

五航空隊參電第二三〇二號

九月二十九日敵機來襲狀況

→ 中文方面

(1) 衡陽以北咸場天候不良ニシテ敵機來襲セズ

贛康鄱陽方面不明

A 情報ニ依レバ十時五十九分―十七時五十六分ノ間柳州ヨリ六次ニ

互リ出撃シアリ

(2)十一時五十分「P-I四〇」二機金華飛行場及停車場銃爆撃機開車大
小機各一其ノ他損害無シ

南支方面

(1)十三時十五時ノ間「P-I五一」四機「P-I三八」三機南築園球場
ニ來タス

(2)二十時五十分一十一時十分ノ間「B-I二四」一機「B-I二五」約二〇機

廣東地區各飛行場及東莞中山附近ヲ爆撃ス又(香港情)三時四十四分敵機一機香港南方海面ニ機雷投下、航空部隊關係機死兵一ノ外損害ナシ

(終)



目誌用

機

至急電報

次長宛

五航軍漢參電第二二九八號

航空軍戦闘概要（九月二十九日）

軍ハ南支方面ニ機先ヲ制シ夜間攻撃ヲ續行、二十九日夜飛行第九十
戦隊ヲ以テ二十時四十五分―二十一時五十二分ノ間柳州（双輕九機）
及南寧（双輕三機）飛行場ノ在地敵機ヲ爆撃シ炎上撃破二六機、其
ノ他二箇所炎上ノ戦果ヲ收メ全機無事歸還セリ

柳州攻撃

炎上 大型五（内四發二）、小型三

撃破 大型二、小型三

計 炎上撃破 一三機
其ノ他二箇所炎上（飛行機及燃料庫ノ公算大ナリ）

南寧攻撃

炎上 大型（四發）二

撃破 大型一、小型一〇

計 炎上撃破 一三機

（終）

一九三〇年九月二十九日發
ニ〇〇〇著 一〇一
〇九三八提出

昭和一九、一〇、一

第五航空軍參謀長

同盟 外信十四號 十九年九月十七日

◎アイヘン完全包圍

リスボン十六日發同盟 ドイツ軍當局の言明によればアイヘン南方の戦鬪は東方ストルベルクに移動したといはれるが、前線からのA電報によれば米第一軍が東方深く進出した結果アイヘンは完全な包圍に陥つたといはれる

同盟 外信十九號

「情」

◎米軍ブ市中央部突入

リスボン十六日發同盟 ロンドン來電「パリ放送によれば米軍は十六日午前遂にブレスト市中央部に突入したといはれる

後 ○。三〇

日誌用

至急電報

昭和一九、一〇、二

1010055 發 1010055 受付
1010055 著 1010055 提出

次 長 宛 第 五 航 空 軍 參 謀 長

五航軍漢參電第三三一號

航空軍戰鬥概要（九月三十日）

一 軍ハ三十日夜引續キ南支那方面ヨリ第二飛行團、飛行第九十戰隊
ノ双輕八機ヲ以テ柳州飛行場ニ進攻シ在地敵機ヲ爆撃シ左ノ戦果
ヲ收ム

炎上大型一（四發）、撃破大型一、其ノ他二箇所炎上

別ニ双輕三機ヲ以テ懷遠（柳州西西北方約一〇〇軒）鐵橋攻撃ニ

（裏へ）

向ヒタルモ同方面天候不良ニシテ攻撃シ得ズ

損害、柳州攻撃ニ於テ未歸還一機

二 第二飛行團ハ拂曉及薄暮襲撃隊 飛行第六戦隊ヲ以テ連縣ノ
敵軍事施設數箇所ヲ爆碎セリ

(終)



電報

次長宛

五航軍漢參電第二三二六號

十月一日敵機來襲況

一 中支方面

衡陽以北戰場敵機來襲セス A 情報ニ依レバ九時一十六分一十六時四十分ノ間柳州ヨリ四次ニ互リ出撃シアリ

二 南支方面

(1) 九時四十分「P I 三八」機藍苞附近ヲ偵察ス

(2) 二十時三十分一二十一時五十分ノ間「B I 二四」「B I 二五」延一〇機廣東地區ノ各飛行場及中山附近ヲ爆撃ス
詳細不明ナリ

(終)

1940年10月1日發
0825著 1940年10月1日受付
第五航空軍參謀長 提出

昭和一九四〇

1873

殿下

電報

参考 次長、支線、信、義?

通電先 威

英方参一電第二四四二號

斷作戰方面ノ我方諜報網ニ對シ敵ハ警戒ス（A情報）

第二〇集四章 總司令ハ六日第五四軍長宛

軍令部七月二十八日附左記電アリトテ之ガ防範ヲ嚴命ス

左記

情報ニ依レバ北緬ノ日本軍ハ最近盟邦ヨリ特ニ派遣サレタル人員ノ活動ヲ防制スル爲メ「ア」カン「一」ヲ「ラ」シ「オ」ノ北中緬甸邊境ニ於テ半箇

1240

1100015發 1101010ニ提出

森部 除 參 謀 長

昭和一九八、一〇

軍用秘録

至急電報

次長宛

五航軍漢參電第一三三四號

航空軍戦闘要報（十月二日）

魚ハ第二飛行團戦闘隊ヲ以テ南築園戰場要地ノ前空遊ニ西江上ノ増
船護ニ任ゼリ

中支戰場方面ハ連日天候不良ニシテ夜間攻撃及地上作戦協力ヲ拘束
セラレツツアリ

10月11日 11時50分 著
10月11日 14時00分 受付
10月11日 15時45分 提出

昭和一九、一〇、三

第五航空軍參謀長

軍事秘密

海軍省 海軍部 海軍省 海軍部 海軍省 海軍部 海軍省 海軍部 海軍省 海軍部 海軍省 海軍部

海軍省 海軍部 海軍省 海軍部 海軍省 海軍部 海軍省 海軍部 海軍省 海軍部 海軍省 海軍部

閣下 閣下 閣下 閣下 閣下 閣下 閣下 閣下 閣下 閣下 閣下 閣下 閣下 閣下 閣下 閣下

南洋昭電第一三三號

八月十三日

東京

東京

東京

東京

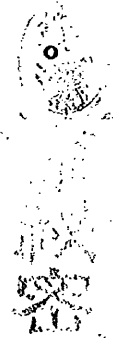
東京

東京

1242

(終)

日誌



電報

次長宛

五航軍漢參電第一三〇九號(電註、一部未著ナルモ取敢ズ配布ス)

九月三十日敵機來襲狀況

中支方面

(1) 衡陽以北戰場敵機來襲セズ。A情ニ依レバ十二時一十八時四十二分ノ間ニ柳州ヨリ六次ニ直リ出撃シアリ

(電註、以下一遺未著)

梧州附近ニ來襲ス

(2) 十三時三十分一十四時二十五分ノ間「P一三八」型偵察ス

(3) 二十時一三時ノ間「B一二四」型、「B一二五」型二〇機廣東地區各飛行場及河南、中山附近ヲ襲撃、又(香特情)敵機一機香港内海中ニ被撃、航空部隊關係河飛行場滑走路被撃セル外損害ナシ

(終)

昭和一九、一〇、四

10110750發
0850著 一〇、一一、一四、一五受付
第五航空軍參謀長

英海軍艦隊 P1.

艦載機

一三五〇

陸上機

五五〇

二 氷島 グリンランド ニューファウンドランド

米

一五〇

一〇〇

一五〇

二五〇

三 地中海方面

英

一四〇〇

一二五〇

一〇〇〇

三〇〇

米

一七〇〇

二三五〇

五〇〇

五五〇

四 阿弗利加(スエズ附近)及近東方面

1244

機用

電報

次長宛

五航軍漢參電第二三五六號

十月三日敵機來襲狀況

一 中支方面

十七時五十六分ー十九時三十五分ノ間二次

霧

二十一時五十八分爆撃機一機衡陽附近ニ來襲ス

A情ニ依レバ外ニ九時三十九分ー十七時七分ノ間柳州ヨリ五次ニ

互リ出撃シアリ

ニ南支方面

(1) A情ニ依レバ八時十分ー十二時ノ間敵機「P-51」(二次ニ

互リ西江流域ニ來襲シアリ)

(2) 二十二時ー一時ノ間「B-25」「B-14」延ニ機廣東地區

各飛行場爆撃ス

ニ關係係損害ナシ

昭和一九、一〇、五
一〇、九、二〇發
一〇、九、二〇著
一〇、九、二〇受付
提出

第五航空軍參謀長

電報

次長宛

第三〇號

ス情報（八月二十五日）

印度歩兵第七七旅團（KALMERT）及英國歩兵第七〇師團所屬第一大旅團（BURGESSON）（兩旅團共四月以降マヤノ先遣部隊トシテ西南及中部緬甸ニ在リシモノナリ）ハ空中輸送ニ依リ交代シ之ニ代リ新ニ英國歩兵第三六師團（FESTINGS指揮ス彼ハ「テサント」ノ専門家ナラシ）「スシルウエル」ノ隷下ニ入ル（地名ニ關スル報告ナキモ參考迄）

1246

昭和一九一〇
九、一、二
九、一、五、九、九、發
九、一、二、〇、七、三、〇、符
二、四、〇、〇、提
瑞典公使館附武官

航空

電報

次長宛

五航軍參謀第二三四一號

十月二日敵機來襲狀況

一北中支方面

全般ニ天候不良ニシテ敵機ノ來襲ヲ認メズ

ニ南支方面

(1) 十二時〇分―十三時十分ノ間「P-1三八」延二機廣東地區偵察

(2) 十一時〇分―十三時〇分ノ間敵機ハ數次ニ互リ西江上ノ船舶ヲ攻撃セルモノノ如キモ詳細不明ナリ

(3) 二十時四十五分―二時三十分ノ間「B-1二四」「B-1二五」延十數機廣東地區及香港附近ニ來襲セルモ天候不良ノ爲内二機天河、白雲

兩飛行場附近ヲ襲撃他ハ投擲セザルモノノ如シ、損害ナシ

(4) 一日夜間廣東地區來襲敵機ニ依ル被害

南村、白雲兩飛行場沿走路ノ一部被擲セル外航空部隊關係ニ損害ナ

シ

(終)

第五航空軍參謀長

一〇四一八三〇發
一〇四〇九二五提出

昭和一九四一〇、五

米
洲
方
面

◎獨乙撃滅後ハ四百萬人ヲ民需
(生産ニ廻スト)。九月十一日二十三時三〇)

。 戦時生産局長代理クヅプハ日本ヲ撃滅スルマデハ總ユル努力ガ續
ケラレルデアラウガ、獨乙撃滅ノ後ハ冷蔵庫、マシオ、乗用自動車ナ
ド民需品ノ製造ニ四百萬人戦時生産カラ廻サレルデアラウト述ベルト
コロガアツタ。

◎獨乙撃滅後自動車三萬臺ヲ拂下グト

(榮港。九月十二日五時)

。 獨乙撃滅後ハ陸軍省カラ自動車三萬臺民間へ拂下ゲラレル旨發表
サレタガ拂下ゲニハ大藏省ガ當ル。

◎驅逐艦ノツクス號近日進水

。 驅逐艦フジ、ノ。ツクス號ハ來ル木曜日進水スル。



日誌用

至急電報

次長宛

四二二三〇〇五著

昭和五、一〇、六

五航軍漢参電第二三六一號

第五航空軍参謀長

(以下一通未著)

(電誌一部未著三付再電要求中モ取敢ス配布ス)

P1 五〇一〇機ヲ發見之ヲ攻撃擊墜五機(内二機落下傘降下) 擊破二機ノ戰果ヲ收メタリ
我が方全機無事

(終)

至急電報

九、一四、一六、一五、一三、一〇、〇九、〇七、〇五、〇三、〇一、
昭發和一九、九、一五、
北 部 軍 參 謀 長 提 出 付

通電先、次長、次官

北軍情電第五四一號

空襲速報第一四號(九月十三日夜)

十七時五十七分—十八時十五分(日没十七時三十分)

敵不明機三機(別侵入セ尤モ三機)幌筵中南部ニ

侵入爆彈十数發投下東方ニ遁走セリ

戦果不明目下判明セ被害ナシ

天候晴 雲量 三 雲高七〇〇視程五〇料



軍事極秘

航空軍

至急電報

次長宛

第五航空軍參謀長

五航軍漢參電第三三五三號(電註)

一部未著再電(栗永中)ナルモ取敢不配而ス

航空軍戰鬥要報 (十月三日)

一軍ハ陝西省方面ノ天候好轉ニ乘ジ三日夜間第八飛行團爆撃隊ヲ以テ漢中及西安飛行場ヲ攻撃シ全機無事歸還セリ

漢中ニ於テハ敵戰鬥機ノ執拗ナル攻撃ヲ受ク

目視シ得タル戰果左ノ如シ

漢中攻撃(飛行第十六戰隊双輕八機、飛行第六十戰隊

重爆四機)

昭和一九、一〇、六

一〇、四、二六三〇發、一〇、五、一八二五提出

(裏)

炎上一箇所 (内八箇所飛行機、二箇所施設ノ公算)

火十リ)

火爆發一箇所

西安攻撃 (飛行第六十戦隊 重爆 五機)

飛行場施設 炎上一箇所、外確認ニ得ズ

二第ニ飛行團戦闘隊ハ引續キ南集團戰場空域ヲ制空

ニ任シ東部

(電註 以下未著)

644

1252

録

日誌用事極秘

至急電報

昭和一九一〇、七

次長宛

第五航空軍參謀長

五航空軍漢參電第三三八一號

航空軍戦闘要報(十月五日)

第二飛行團、戦闘隊ハ南集團ノ戦場制空竝ニ西江
 上ノ船舶掩護ニ任ズ
 二戰一機四戰六機ヲ以テ十六時三十分P151
 約二〇機B1251一機ヲ水上空ニ捕捉邀撃シ
 熾烈ナル戦闘ヲ交ヘ撃墜P151四B1251ハ不
 確實ノ撃破P151一B1251計撃墜破七機ノ

(裏)

戰果ヲ收ム、損害自爆三機（内四戰一）別ニ二戰
一機水路輸送掩護中滑油漏洩、爲悞城附近ニ不時
著大破（操縦者負傷）セリ
別ニ飛行第九十戰隊双輕各ニ機ヲ以テ五日夜柳州
飛行場滑走路及懷遠鉄道橋（橋礎附近）ニ發命中
ヲ爆撃全機無事歸還セリ

終

1254

646

第二課

軍事機密

日誌用

電報

次長宛

五航軍漢參電第3370號

十月四日敵機來襲狀況

一 中支方面

(1) 卜ノ口戰場方面一般天候不良多敵機來襲之認識

(2) 十五時五十分—十六時五十分間P1却延二機宜昌

信陽方面及沙市之偵察ス

二 北支方面

十六時五十分P1四七機 鄧城附近ヲ爆撃ス

(三張ハ)

昭 和 一 九 一 〇 一 七
百六十五號 百六十四號
第五航空軍參謀長

三南支方面

(1) 八時五分 - 十七時五分 間 八次「P」由「P」五「延」三機以上南部部隊戦場へ来襲ス。主として西江流域舟艇ヲ攻撃ス。

(2) 我々激撃隊「延」五機破同ニ計七機。十三時五分 - 十四時五分 間「B」五「延」六機 岩地區へ飛行場爆撃ス。双軽一、尖上。

(3) 十三時五分「B」五「推定」一機 厦門海軍陸上施設ヲ爆撃(歳部隊情)

(4) 十二時五分「B」五「一機 厦門海軍司令部地區銃爆撃 損害輕微ナリ(歳部隊情)

四、臺灣方面

イ情報係レバニ三時四十分敵機我が船
十隻ヲ新竹西北方海上ニ發見ニアリ

(終)

軍事機密

至急電報

次長宛

五航軍漢參電第ニ四〇七號

第五航空軍參謀長

昭和一九一〇八
一〇七、八〇〇發一〇七、一九二〇受付
三三三三提出

日誌用

航空軍戰鬥要報（十月六日）

一 贛州飛行場、依然粵漢公路以東ニ於ケル唯一基

地トシテ六日現在約二〇機内外ノ建制戰鬥部隊ヲ

駐地セシメアリ

軍ハ六日夜第八飛行團ノ輕爆隊（飛行第十六戰

隊双輕一四機）ヲ以テ同地ニ進攻シ在地敵機及

滑走路地區ヲ爆碎全機無事歸還セリ

目視シ得タル戰果左ノ如シ

炎上小型三、擊破小型五、計七機

（裏へ）

五箇所炎上（不確實）

且、他滑走路南側概ね三分ノ二ヲ爆碎使用

ヲ拘束ス

二 第二飛行團戦闘隊ハ引續キ西江上水路輸

送ノ空中掩護ニ任セリ

（終）



軍事極秘

日誌用

電報

次長宛

第五航空軍參謀長

五航軍漢參電第三三八六號

十月五日敵機來襲狀況

一中支方面

二十三時十四分—二十四時三分、間敵機數機武昌

南方地區及通城、白螺磯附近、侵入セルモ攻

撃地點等不明

三南支方面

〇九時、P-51型一機梧州ニ來襲ス

他二十三時四十五分—十七時三十分、間P-51

裏

652

昭和一九四〇、八

一〇七〇〇〇發一〇七三〇〇〇提出

1260

型延二機廣東地區及香港附近ヲ偵察ス

(2) 十六時三十六分戰爆約三一機(B一三五型

一 P一五一型二〇)三水附近ヲ爆撃ス

我が邀撃ニ依リ撃墜「P一五一型 五 B一

三五型一(不確實) 撃破「P一五一型

B一三五型各一計八機

我が方自爆三

(3) 二十三時十分―二十四時之間「B一三四型「B一

三五型一機 三水附近ヲ爆撃ス 詳細不

明ナリ

三、臺灣方面

A 情ニ依レバ二十四時三十分敵機ハ我が船團

五隻ヲ嘉義西方海上ニ發見シヤリ (終)



至急電報

昭和一九一〇

次長宛

〇、八、二〇、一〇、九〇〇、五提出

第五航空軍參謀長

五航軍漢參電第二四三一號

航空軍戰鬥要報（十月七日）共一

一、第八飛行團ハ七日夜成都飛行場ニ折柄集結中ノ

B-1-9ニ對シ先制急襲シ大戦果ヲ擧ケタリ

戦果 目下調査中

別ニ飛行第十六戦隊ハ双軽ニ機ヲ以テ瀘州飛行場

ニ進攻シ滑走路及米人宿舍（一棟炎上 三棟撃破）

ヲ爆撃シ無事歸還セリ

又飛行第二十九戦隊ノ在ニ套口部隊（二戦五機）

（裏）

ハ十三時過同地在港船舶ニ對シ來襲セルP1四。
九機、P1五、L三機ト交戦シP1五、L一機撃墜
P1四、L二機ヲ撃破セリ

我が方ノ自爆二機、船舶一隻小破航行ニ支障ナシ
二第ニ飛行團輕爆隊ハ柳州及南寧ノ攻撃ヲ企圖セル
モ敵地天候不良ノ爲進攻ヲ中止セリ

(終)

655

1263

緊急電報
次長宛

昭和一九一〇
九〇〇三五六
九〇〇五著
九〇〇三〇
九〇〇二〇
提出

五航軍漢參電第三四三六號

航空軍戦闘要報（十月七日）其ノ二

一五航軍漢參電第三四三一號 成都飛行場群

先制急襲ノ綜合戦果 左ノ如シ

彭山（飛行第十六戦隊、双軽四機）滑走路及圍

形誘導路間ニ敵機蝟集シアリ

炎上 大型機（B1129）一 小型機 一

不明機 二 一箇所炎上

撃破 大型機（B1129）二 小型機 一
（裏）一八機

計 炎上撃破 四機

新津（飛行第六十戦隊 重爆 四機）

彭縣 太平寺（飛行第六十戦隊 重爆 各一機）

二箇所炎上ノ外 戦果確認シ得ズ 成都上空雨雲

高 一〇〇〇、S K 視度 極メテ不良ナリ

我が損害 敵機ノ攻撃ニ依リ 運城飛行場ニ於テ重

爆撃機一機（園田大尉）自爆 双軽一機大破

戦死 下士官 一

二別ニ飛行第十六戦隊 双軽四機ヲ以テ南鄭及西安

ヲ攻撃 四箇所ヲ炎上セシム

（終）

目録用

第二課

緊急電報

昭 和 一 九 一 九
五 航 空 軍 司 令 官

通電先 次長、所總、第十方面軍、臺灣軍

五航軍參謀部第四三八號

五航軍著作命令甲第一五八號要旨(自三時五分)

一、王兵團輸送船團(上海發)九日(豫定)南方機動

飛行第一戰隊、飛行第十四戰隊(該船團上海附近

於九日所望及對潛護衛之關予之區處ヲ受ケシマル

二、獨之第百十教育飛行團長、飛行第一戰隊、飛行

第十四戰隊之區處ヲ前項船團ノ上海一臺灣航路上

(裏)

658

1266

上海附近及同近海ノ防壁ヲ對潛掩護ニ任スベシ
右任務達成ノ爲支那方面艦隊司令部第二船舶隊
送司令部ト密ニ連絡スベシ
三 飛行第一、第四戰隊ノ第一項目ノ爲獨之第百
十教育飛行團長ノ區處ヲ受クベシ (終)

誌用

第三三三

電報

五航軍漢參電第二四三〇號

十月七日敵機來襲狀況

一 中支方面十三時

「P140」 「P151」 「P152」 機二套口ニ來襲我ガ邀撃ニ依リ

撃墜「P151」 「P152」 撃破「P140」 「P151」
我方方自爆二

二 北支方面

十二時三十八分「P140」四機蒲州附近東南進、A情ニ依レ
バ外ニ十四時五十六分西安ヨリ「P140」出撃シアルモ詳細
不明ナリ

三 南支方面（六日追加）

零時三十二分一、二時四十二分ノ間ニ「B125」數機天河、白
雲飛行場ヲ爆撃ス、損害ナシ

四 A情ニ依レバ七時四十分一十一時三十五分ノ間柳州ヨリ三次「P
140」 「P151」 延一三機東北及東南ニ出撃シアルモ詳細

不明

（終）

第五航空軍參謀長

一九四〇年十月九日發
一九四〇年十月九日提出

昭和一九、一〇、九



日誌用

電報

次長宛

第五航空軍參謀長

五航軍漢參電第二四〇九號(電註一部未著+ル) 昭和一九一〇一〇

十月六日敵機來襲狀況

一中支方面

の七時—十八時三十分の間六次P一四〇P一五一

延二四機以上衡陽及零陵飛行場ニ來襲

損害無シ

四十五時三十四分B一ニ九一機

(電註以下一通未著)

蒲州附近ヲ通過ス

裏二

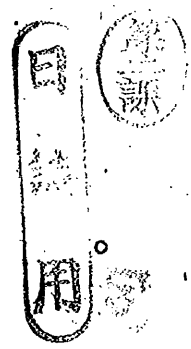
三南支方面

四日二十三日一時、間爆撃機望月五、矢野六
永井一〇、冀南、附近ヲ爆撃（南松情報）

終

66191

1270



至急電報

次 長 宛

五九航空隊司令部第二四九九號

航空軍威國頭報（十月九日）

軍ハ飛行第四十四隊隊員ノ一部ヲ以テ呂武策關ノ戦闘ニ協力シ洛陽店（應
山西南約四〇軒）軍事施設ヲ燦碎セリ

尙九日夜天候不良ニシテ進取ヲ中止セリ

（終）

1010 1525 1010 1525
一五三三著 一〇一〇 一五二五
第五航空軍參謀長

昭和一九、一〇、一〇

電報

次長宛

第五航空軍參謀長

10月8日 10時10分 10時15分 10時20分 10時25分 10時30分 10時35分 10時40分 10時45分 10時50分 10時55分 11時00分 11時05分 11時10分 11時15分 11時20分 11時25分 11時30分 11時35分 11時40分 11時45分 11時50分 11時55分 12時00分

誌用

五航軍漢參電第二四四八號（電註、通信尉レノ爲遲延ス）

十月八日敵機來襲狀況

一 中支方面

十三時四〇分「P1四〇」六機彭澤附近ノ船舶ヲ銃爆撃、損害ナキ見込ナリ

我方邀撃ニ依リ撃破「P1四〇」一機

二 北支方面

(1) 七時五十分「P1四〇」七機我ガ成都攻撃機ノ歸途ヲ追尾シ來リ 運城飛行場ヲ銃爆撃、重傷一自爆、在地双機一大破、下士官一機死

地上火器ニ依リ「P1四〇」一機ヲ撃破白煙ヲ吐カシム

(2) 十二時四十分一十三時三十分ノ間「P1四〇」七機 信陽、嶺山

及上蔡ヲ銃爆撃、信陽損害ナシ

其ノ他ハ不明

三 南支方面

柳州方面天候不良敵ノ出撃ナキモノノ如シ

(終)

昭和一九二〇

日誌用

電報

次長宛

五航軍漢參電第百六十一號

昭和一九二〇
一〇二一〇四九番
第五航空軍參謀長

十月九日敵機來襲狀況

一中支那方面

十四時四十六分 P-40 四 P-51 二

安慶飛行場ニ來襲 炎上 在地ニ戦七機

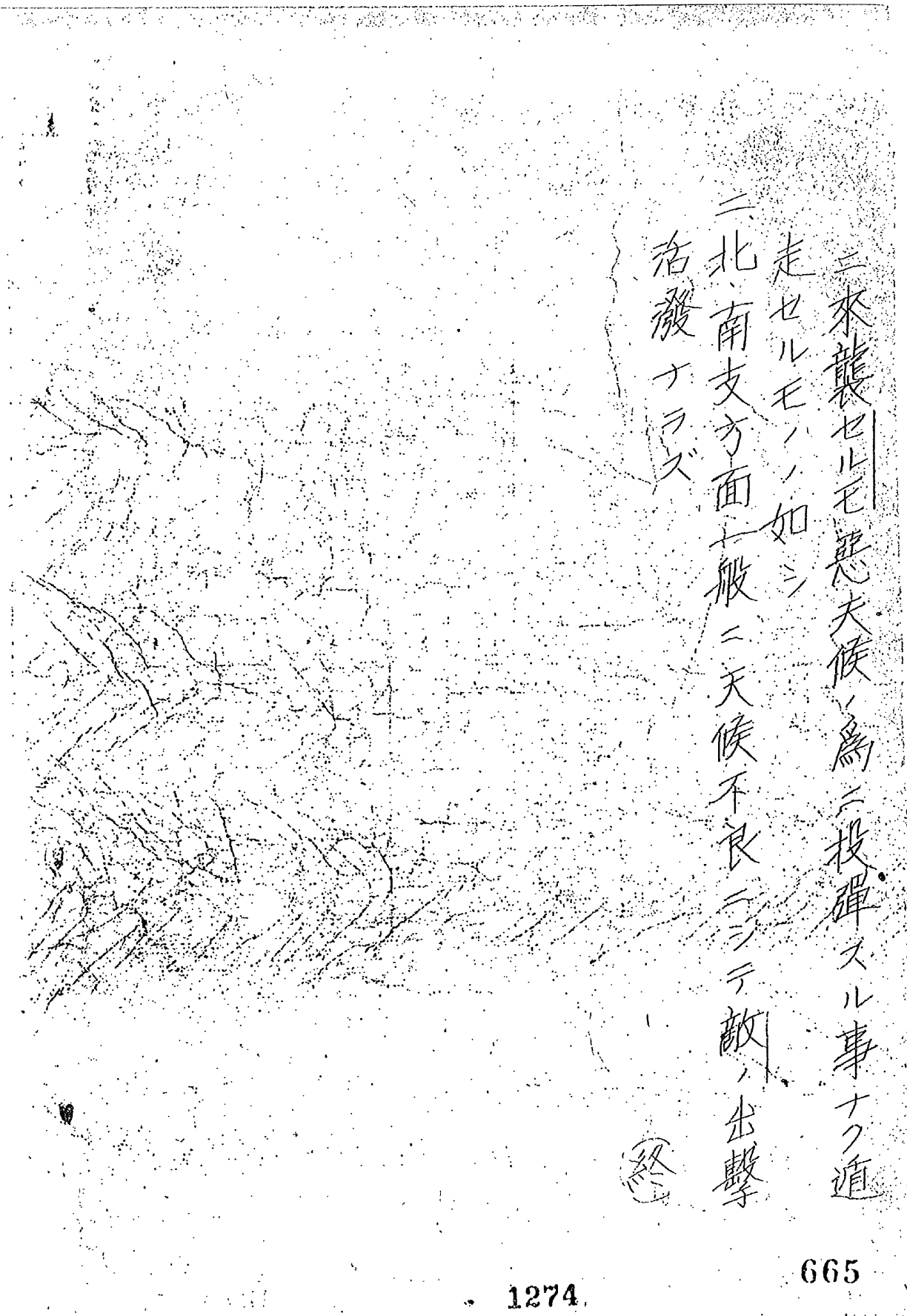
中破同一戦機人員異状ナシ

當時南昌敵機一語不明不足為ニ該方

面ハ中止シヤリ

十二時一十三時之間ニ敵機三十四機武昌周邊

(裏)



二來襲セルモ、態夫候、爲ニ投彈スル事ナク遁
 走セルモ、ハノ如シ
 二北、南支方面ニ般ニ天候不良ニシテ敵ノ出撃
 活發ナラズ

終

誌用

至急電報

次長宛

五航軍漢參電第二四七四號

航空軍戰鬥要報(十月十日)

一軍八第二飛行團戰鬥隊ヲ以テ南集團戰場特ニ
西江流域ノ制空ニ任ズ

別ニ飛行第四十四戰隊在漢口部隊ヲ以テ呂武集
團ノ戰鬥ニ協力シ洛陽店三里店及跛子畷附近
ニ集結中ノ敵ノ部隊約二〇〇ヲ爆摧ス

ニ第二十飛行場中隊ノ梧州前進隊ハ德慶附近ニ

中敵機ト交戦シ四機ヲ撃墜セリ
我が方戦死五 重軽傷數名

(終)

昭和一九一〇・一一

第五航空軍參謀長

一〇五
二二三
三三五
五發
一〇二
二〇五
五發
四五〇
提出

目録用

電報

次長宛

五航憲漢參電第2477號

十月十日敵機來襲狀況

一 中北支方面

一般ニ天候不良ニシテ敵機ノ來襲ヲ認メズ

二 南支方面

八時三十七分ー十五時十三分ノ間 四次「P140」「P151」
延一八機以志丹竹皮梧州附近ニ來襲ス

(終)

1011 1010 發
1011 1010 著
1011 1010 提出

昭和一九、一〇、二二

第五航空軍參謀長

日誌
極秘

電報

昭和一九、一〇、二二

1011 1100 發
1211 1100 受付
1311 1100 提出
第五航空軍參謀長

通電先 次長、航本

五航軍漢參電第二四七七號

十月十日敵機來襲狀況

一 中北支方面

一般ニ天候不良ニシテ敵機ノ來襲ヲ認メズ

二 南支方面

八時三十七分―十五時十三分ノ間ニ四次「P140」「P151」

延一八機以上丹竹及梧州附近ニ來襲ス

(終)

668

1277

軍事機密



日誌用

電報

次長宛

五航軍漢參電第二五〇號

第五航空軍參謀長

昭和一九一〇、一三

〇、三、二〇、〇〇、一、三、三、三、四〇、提

十月十二日敵機來襲狀況

一 中支方面敵機來襲ヲ認メス

二 北支方面

十八時十四分 P1517機 運城飛行場銃爆撃

滑走路一部被彈、兵舎一部破損

三 南支方面

十一時三十五分、十二時三十五分ノ間單發五機

丹竹附近ニ來襲ス

(裏へ)

四 A 情報ニ依レバ外ニ

八時十七分ー十三時二十四分ノ間ニ柳州及南寧
ヨリ四次ニ互リ出撃シアルモ詳細不明ナリ

(終)

1970

8581

1279